

# ハウ女史

倉 橋 惣 三

アンニ・ライオン・ハウ女史は、我國の幼稚園教育に於て最も紀念せらるべき一人である。外人にして我國の幼兒教育に盡力せられた人は必ずしも尠くない。しかも、ハウ女史の如く長年月に亘つて一意此のことに専念せる人は、余の知る限り他にないと思ふ。殊に、疾くに頌榮保姆傳習所を興し、年々幾多の卒業生を全國の幼稚園に送つて、斯教育の普及と發達とに貢獻せられたる功績に至つては、日本の幼稚園教育が女史に負ふところ頗る大いなるものがある。常に深甚の敬意を感ずる次第である。

ハウ女史が始めて神戸に來つたのは、明治二十年米國中央部婦人傳道會社の宣教師としてであつた。しかも、女史は元來バトナム保姆學校の卒業者であつて、その後シカゴに於て私立幼稚園を經營し、自らその園長たること九年、我國へ派遣されるの年にまで及んで居た斯教育の専門家であつた經歷から推し考へて、渡日後の目的の中に、幼稚園設立の企圖があつたであらうことは疑ふことは出來ない。殊に

幸なことは、當時神戸の先覺婦人諸君の間に、幼稚園設立の計畫が行はれて居り、それがハウ女史の來たるによつて、機急に熟し、明治二十二年、頌榮幼稚園の開園を見るに至つたのである。此の事情は、事實上、完全に、女史をして、幼稚園教育の爲に日本に來て呉れた人であらしめて居るのである。

其當時のことが大正九年發行の頌榮幼稚園三十年間略史に次の如く記されてゐる。

「回顧すれば今を距ること凡そ三十年我國幼稚園の教育未だ盛ならず世人亦其の切要を感ずること薄き時に方り我儕同教の姉妹幼兒教育の忽緒に付すべからざるを感じ相謀りて幼稚園設立の計畫をなせり即ち明治十九年五月十二日會友遠出てい子の宅に於て婦人親睦會を開けるに際し席上來會の姉妹等に訴へて贊助を求め且つ之れが實行を盟ひ此業の第一着手として資金を得ることに力を致さんことを約せり爾來各自家政の暇ある毎に雛人形の衣裳を製し之を數十の人形に着せ且つ會友の内より祖先傳來の古器物を寄附せる物等を集めて之れを米國に輸出し得る處の純益金七拾參圓に婦人親睦會より寄附せるものを併せて金百參拾六圓を得之を基本として漸次蓄積を謀ることゝなれり

明治二十年更に同感の婦人を募り幼稚園設立の目的を以て婦人會を組織し會員各自毎月壹錢以上の積金をなして設立の資金に備ふ是現今の婦人會の濫觴とす爾來世間の状態は大に變化し教育の業亦進歩して各地に幼稚園の設立を見るに至れり然れ共我儕微力にして速に其志望を達することを得ず只互に相勵みて好機の至るを持ちしに天佑のある處我儕の希望空しからずして幼稚園専門の米國女教師ハ

ウ氏の助を得明治二十二年に及び広く趣意書を頒布して江湖の賛助を求め亦慈善音楽會を催し獲る處の純益金に加へて遂に明治二十二年七月園舎建築に着手し同年十月其功を竣へたり……」

之れ實に、それ自身が興味深き幼稚園創設史として貴重すべき資料であるが、此の記事の裏にかくれたるハウ女史の當時の盡力と寄與の如何に大なりしかを想像するに難くない。

斯くて、頌榮幼稚園の内容は着々と充實して行つたと共に、一方、頌榮保姆傳習所も、明治二十四年七月第一回の卒業生十名を世に出すに至つた。その一人たりし和久山さそ氏は、爾來専心ハウ女史を助けて今日に至り現に同傳習所の中心者となつてゐられる。

ハウ女史の功業は、頌榮幼稚園長及び頌榮保姆傳習所長としての實際教育の外に、邦語による幼稚園圖書の譯著刊行に於て更に大いなるものがある。明治二十五年には「幼稚園唱歌」第一編を、同二十九年には「幼稚園唱歌」第二編を、同三十九年には「母ノ遊戯ト其ノ育兒歌」上下を、同四十二年には「人ノ教育」及び「開發生活」を、大正六年には「幼稚園教育原理ト實習」を、同七年には「フレトベル傳」が刊行されてゐる。而して、いづれも皆版を重ねてゐるが、中にも、「人ノ教育」は、彼のフレトベルの名著を我が國に初めて譯出せられたものであつて、幼稚園教育の研究の上に與へたる効果は實に測るべからざるものがある。今日に於てこそ、その譯書も數種を加へてゐるが、明治四十二年以來最近に至るま

で、原著若くは英譯によらずして此の書を研究せんとするものは、唯一のハウ女史譯により、その恩恵によらざるを得なかつたのである。余の如きも、此の譯が始めて世に出でた時、如何に研究の便を與へられて喜んだことであらう。一體、幼稚園教育に關する書籍は、明治初年の譯述書を始めとし、その後數氏の編著があるだけで、その數に於ても甚だ多くないが、その中、最も多く讀まれたものは、蓋し此のハウ女史譯の「人ノ教育」であつたと思ふ。余は、ハウ女史の此の功業に關して、米國に於けるフレ・ベルの編譯者としてのミス・ブローの功業を聯想するのであるが、假りに頌榮幼稚園と傳習所の經營なしとするも、之れだけでも、我國の幼稚園界はハウ女史の名を永久に記憶しなければならぬ。況んや、一方、その説を實地に行ひ、幼稚園の一つの型を、我國人の目に指示せられたるに於て、實に、幼稚園教育に於ての教師の教師であつたといつていゝ。昭和二年十月退職歸國せられて、今は、我國の教育に直接の關係を有されないが、その熱心なる保育精神の感化は多數の教へ子によつて現に我國幼稚園の中に活いてゐるのである。

頌榮幼稚園開園四十年の祝賀式とハウ女史紀念の講演會とが、十一月神戸に舉行開催せられるに當り、余も亦、講演者の一人として招かるゝの光榮にあづかつたが、公務を以て果さず、茲に簡單ながら同女史の功業に對し、敬意を表することゝした。嘗て、同幼稚園に女史を訪ひし日のことを憶ひつゝ。(昭和四年十月記)